

式辞

春たけなわとなりました、美しい本日に、鈴鹿工業高等専門学校の令和7年度入学式を執り行うことを大変喜ばしく思います。新入生の皆様とご家族、ならびにご関係の皆様方に本校の教職員を代表してご入学を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

私は本校の校長を務めます、藤本と申します。これから皆さんと過ごしていくことを、大変楽しみにしております。

さて、今年度は、学科213名、専攻科26名、そして第3学年にはマレーシアとモンゴルからの留学生2名があらたに入学いたします。三重県内ご出身の方が多いですが、県外からの方も多数おられますし、海外からはフィンランドからの交換留学生もお迎えいたします。学科の入学者は各地の様々な中学校を卒業されており、お互い顔見知りどうしの学生は少ないでしょう。それだけ、多彩な人たちが集まっています。中学校からの進学先の大多数が高校であるのに対して、皆さんは高専を選ばれました。鈴鹿工業高等専門学校は1学年定員200名ですが、全国には国立の高等専門学校が全部で51あり、そのほか私立や公立も含め、高専全体の定員は1学年につき約1万人です。そして、今日入学される15歳人口は全国で約100万人です。従いまして、皆さんは100人に1人の数少ない進路を選ばれたことになります。皆さんが、おそらく子供の頃よりモノづくりや情報技術などに対する強い興味を持ち、そして15歳にして工学の道へ進むことを決意されたことに、私は深く敬意を表したいと思います。皆さんと同世代の方々の多くは、これから受験勉強に多くの時間を費やすことになりますが、ここにいる皆さんは工学の基礎学問とともに、手を動かしての物づくり、あるいはプログラミングなどをつうじて実践的なことを早期より学ぶことになります。ぜひ皆さんの若いエネルギーを、様々な創意工夫をおこなうことに投入するとともに、皆さん方が潜在的に持っている能力をはやく開花させてください。

ところで、ここ数年世界では戦争が起きたり、政治状況が変わりつつある国が多くあったり、不安定な要因が次々と起こりつつあります。一方、テクノロジーに目を向けますと、人工知能の一種である生成AIが急速に普及発展し、それに伴い半導体産業もさらに高性能化が進んでいます。これらは、新たなエネルギー需要となってこれまで主に先進国で進められてきた省エネルギーの傾向から逆行する動きが見られます。本校でも、AIと半導体人材育成の教育プログラムを実施するとともに、カーボンニュートラルの、つまり化石燃料によってもたらされる大気中二酸化炭素の削減ですが、人材育成にも取り組んでいきます。ここにおられる多くの皆さんは将来、工学の分野に進まれると思いますが、いま述べた分野に限らず非常に大きな選択の幅があります。ぜひ、本校で学ぶ間に、それぞれ自分が何をやりたいかを見つけていただきた

いと思います。

本校、鈴鹿工業高等専門学校は63年前に高等専門学校の制度ができたときに開学し、全国で最も有力な高専の一つとして、多数の人材を世の中に送り続けています。皆さん方は、我が国の、今後の発展のために最も必要とされる人材として注目と期待とを集めており、ぜひ誇りをもって本学にて学んでください。

最後に大事なことを申し上げます、皆さんは、この鈴鹿のキャンパスで、15歳から20歳頃までの青春時代を過ごすことになります。一生のうち、最も活力に満ちた時期であるとともに、悩み多き月日でもあります。本鈴鹿高専では、知・徳・体の三育を重視する全人教育を行うことを建学の精神としています。すなわち、優れた知性を磨き、人格的に優れた技術者を目指し、さらに健全な身体をはぐくむ、ということです。これから、勉学や生活あるいは人間関係で悩んだり、ときには困難にぶつかることがあるかもしれません。私たち教職員は一丸となって皆さん方を見守ります。なにか困ったときには遠慮なく、私どもに相談してください。

皆さんが、この素晴らしい鈴鹿高専で学び、個性を伸ばし、たくさんの友達を作って、成長されることを心から願い、入学式に際しての私の式辞といたします。

令和7年4月7日

国立鈴鹿工業高等専門学校長 藤本慎司